

## 備中神楽

受け継がれし伝統

全身全霊を込めて舞う姿が多くの人を魅了する郷土芸能「備中神楽」。多くの人の手によって絶やすことなく受け継がれています。

今月号では、関係者のインタビューなどを交えながら「備中神楽」について紹介します。

☎ 社会教育課 ☎ (21) 1516

## 備中神楽とは

五穀豊穡、家内安全、無病息災を願い、地域の秋祭りで奉納されるところにも、イベントや行事などでも披露されている備中地域の郷土芸能の一つで、今では荒神神楽と神代神楽を総じて「備中神楽」と呼ばれています。

現在の備中神楽に至るまで、古くから神事色の強い荒神神楽が演じられてきました。今から約220年前、高梁市出身の神官である西林國橋が、荒神神楽に「古事記」「日本書紀」の神話を取り入れた神楽の創作に取り組みました。そこから演劇性に富んだ芸能性の高い神楽、いわゆる神代神楽が仕上がりしました。また、神職のみが奉納していた神楽を神職ではない神楽太夫が奉納するようになり、現在の形になりました。

備中神楽は昭和31年に岡山県重要無形民俗文化財に指定され、昭和54年には国の重要無形民俗文化財にも指定されました。